



萩市須佐地域

公民館だより

須佐地域生涯学習推進
マスコット「まな坊」

※題字は昭和48年発刊第1号時のもの

令和6年

9月

第614号

集おう！学ぼう！
手をつなごう！

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 Tel.08387-6-2310 FAX08387-6-2030
弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 Tel.08387-8-2044 FAX08387-8-2212
特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット

ス々の帰省者との親睦…

笑顔でプレー（須佐地区対抗ソフトボール大会）



ランナーファーストセーフ…？



長打を狙って…



選手宣誓！



ランナーアウト…？

今月の話題

- 盆…帰省者とともにスポーツ大会……………2P
- 高校生が初めて祭りを企画……………3P
- 楽しいウキウキの夏休み体験……………4～5P
- 地震に備えよう！防災講座……………5P
- 特集対談
- 「地域課題もう後がない」（後編）……………6～9P
- あの頃の須佐は「昭和58年の水害」……………13P
- 我が家のアイドル！……………14P

9月の花 「キキョウ」



生涯学習発表会の
絵手紙の作品から

～花ことば～

「気品」「清楚」
「変わらぬ愛」

「変わらぬ愛」は、戦に出る夫を待つ妻が、キキョウの花に心を託したという逸話からきているようですが、出典は定かではありません。



猛暑の中、汗だくの熱戦が展開!

須佐地区対抗ソフトボール大会



盆恒例の軟式野球大会から変更となったソフトボール大会が、午前8時30分から、須佐グラウンドで開催され、多くの選手が汗を流しました。

今年は、①水海・下三原下・野頭・前地②本町・河原丁・松原、③山根丁東・西の連合3チーム、約50名が参加し、久々の再開で親睦を図りました。

開会式では、水海の中本健太郎さんが元気よく選手宣誓を行いました。試合はリーグ戦で、3チーム総当たりの3試合(1試合7回まで)を行い、勝率及び得失点差で優勝を争うこととなりました。

この盆のソフトボール大会では、帰省者を含めた一般成人の他、中高生や女性もチームの中に入って試合を行うことで、より楽しさが倍増しました。

また、皆さん長打を狙って真剣にバットを振り守備側も好プレーあり珍プレーありと見ている側も興奮するような場面が展開されました。

リーグ戦では、ホームランが4つ続いた本町・河原丁・松原が2位に食い込みましたが、勝率差で水海・下三原下・野頭・前地が逃げ切りま



女性も男性に交じってプレー!

【大会結果】

優勝 水海・下三原下・

野頭・前地連合チーム

準優勝 本町・河原丁・松原

連合チーム

した。暑い中、熱いプレーを展開して楽しませていただいた皆さん、大変お疲れさまでした。
来年も多くの帰省者との楽しいスポーツ大会を楽しみにしています。
なお、大会結果は次のとおりです。

各地区で盆踊りを伝承!

8月14日(水)と15日(木)には各地区で盆踊り大会が行われました。

須佐地区



新盆供養の後、恒例の「愛の輪音頭」を2回踊り、開会式の後、盆踊り大会が開催されました。

今年は午後からイベントがあった関係もあり、例年になく多くの人でにぎわい、約200名の方が文化センター会場で踊られました。

浴衣を着て踊っている子や、上手に踊っている子どもには、実行委員



会場いっぱいに盆踊りを楽しむ来場者

会から花メダルのプレゼントがありました。また、踊りの後には盆恒例の抽選会も行われ、多くの人が賞品を持ち帰っていました。

弥富地区

一方、8月14日(水)に行われた弥富地区の盆踊り大会では、約100名の参加があり、伝統の八手踊りを踊りました。弥富地区も例年になく踊り手が多く、やぐらの周りに大きな輪ができました。



やぐらの周りで踊る参加者たち

鈴野川地区

8月14日(水)、鈴野川地区でも盆踊り大会を楽しみました。



農林漁業等健康増進施設で...

8/15 須佐を元気にしたい 高校生が考えたお祭り賑わう！



猛暑が続く8月15日（木）、須佐文化センターを会場に、夕方からの盆踊り大会までの合間を利用し、「須佐を盛り上げたい高校生が考えたお祭り」が初めて開催されました。この祭りをやろうと思ったきっかけは、中学生の時に須佐地域の魅力再発見の学習をしたことや、今、須佐地域は人口がどんどん減ってきており、何とかして地域を盛り上げて住民の皆さんを元気にしたいという思いから、今回の祭り開催に至ったそうです。

しかし、この企画を立ち上げたのが約2ヶ月前。大きなイベントを行うにとしては、立ち上がりが少し遅く、話し合いも準備もなかなか思うように進まないのが実態でした。

最終的には

大人から協力を得ながら…



結局、祭りの流れをよく知っている大人達にアドバイスをしながら、当日の動きを決めていきました。

祭り前日も、朝から本番の流れを確認し合ったり、また出店準備をしたりするなど、猛暑の中でしたが夕

方まで頑張って準備をしていました。とにかく、主催は高校生たちなのだから、失敗してもそれを次に活かしていけばいいのだから…と、周りの大人たちはやきもきしながら見ていました。極力手は貸さないよう、それでも、一生懸命準備している様子を、暖かく見守っていました。

賑やかに開催された祭り みんなが笑顔に…

そして、8月15日本番…。

午後12時半を過ぎると、文化センターホールで行われる、祭りのメインイベント、

ゲーム大会の受付に、続々と出場者が来られていました。

開会式では、実行委

員会会長の野村廉俊くん（高3）が、「僕たちの作ったお祭りを、



画面を見ながら真剣にゲーム操作する子ども達



大画面でのゲーム大会に見とれる会場の皆さん

決定戦を行います。

レースは、高校生が実況放送をしながら行われ、見るだけでも分かりやすくなっていました。また、会場内はどよめきやレース後の拍手など、画面を見ている方も選手と一体感になって楽しんでいました。大会が終わった後は、小さい子どもさんにも喜ばれるお菓子まきもありました。文化センター前では、わたしがしや冷やしパイナップル、肉巻きおにぎりなどの出店や、輪投げ、輪ゴムを使った射的などのゲームコーナーも用意され、こちらも子ども連れの家族で大変賑わっていました。

少し時間をおいて、小学生から高校生までの須佐地域内の有志の子ども達による「田植えばやし」も披露され、いつもと違う盆祭りに、会場の皆さんも楽しいひとときを一緒に迎えられました。

野村会長は、「僕たちが実行した祭りを次も引き継いで、須佐地域をずっと盛り上げてほしいと思います」と最後に願いを込めたあいさつをされました。

最初は、本当にどうなることかと思いましたが、最後までなしとげる高校生達の姿は立派でした。



夏休み、子ども体験！

夏休みも8月を過ぎました。須佐公民館では、毎年恒例ののびのび教室や放課後子ども教室の体験がありました。

真夏のそうめん流し

のびのび教室

8月7日（水）、久原園地にて毎年恒例の「竹細工とそうめん流し」を行いました。参加者は小学生3名、竹細工指導者のコミュニティ須佐が6名、高校生ボランティアが3名、その他大人が8名の総勢20人が集まりました。



竹細工に奮闘する子ども達

このそうめん流しは、コミュニティ須佐の皆さんの指導の下、竹細工にもチャレンジし、自分の器と箸は自分で用意します。それが作れなければそうめんを食べることはできません。

日頃、のこぎりや小刀、ヤスリを使わない子どもにとっては、これがなかなか一苦労。「俺、のこぎり苦手」と言っていた子どもも大人の助けを受けながら、どうにか竹の器と箸を完成させていました。

全員が作り終わったら、いよいよそうめん流しがスタート！今回、そうめんとは、生き活き教室のつどい会に集まったメンバーが用意して下さいました。具はネギ、ミョウ



そうめんをおいしそうに食べる子ども達

作って遊ぶ体験工作！

須佐放課後子ども教室

8月1日（木）の午後、段ボールを使った「走る車」の工作を行いました。これは前回、ペットボトルで走る車作りをしたのですが、簡単と思っていたものが、実際に作ってみたら、案外難しいところがあり、思ったよりもできが悪く、走りも悪かったことから、ペットボトルより簡単な段ボールで作ることにしました。

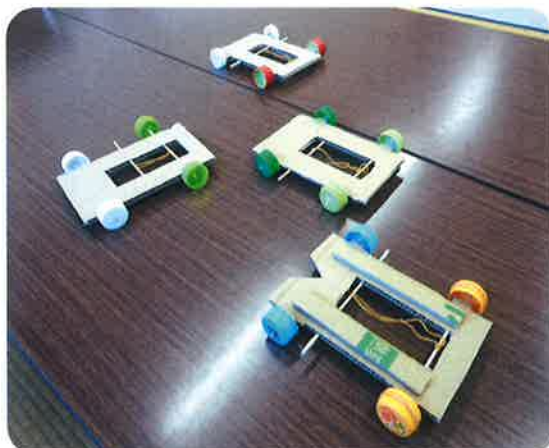
材料は、段ボールと竹串、ペットボトルのキャップ、輪ゴムです。最初に、段ボールで車の形となる土台を切り落とし、真ん中も切り落としておきます。その後、タイヤとなる竹串とキャップを土台の前後に、ホットボンドを使って取り付けます。



真剣な表情で工作をする子ども達

そして、もう一本の竹ぐしを中央の穴の開いた部分（できるだけ後ろ側に近い場所）に取り付けます。

出来上がるまであと一息。最後は、車を走らせる時に必ず必要な輪ゴムを付けたら完成です！



工夫すればもっとカッコイイのができるかも...

車を後ろへ交代させると、輪ゴムがクルクルと竹串に巻き付けられ、その状態で手をはなすと車が発進します。最初は、輪ゴムが上手く串に巻き付かず、どうすれば巻き付くのか、それともキャップのタイヤが滑ってクルクルと上手く回らないのか。色々やってみると、輪ゴムの根元部分を最初にしっかりと引っ張っておくことで、少し問題が解消しました。

子ども達は、出来上がった車を早速動かして楽しんでいましたよ。

夏休み終盤… 宿題！片付け！大作戦！

弥富子ども会

8月19日（月）・20日（火）の両日、今年も弥富公民館で子ども会主催の「宿題！片付け！大作戦！」が開催され、須佐地域の小・中学生8名が参加し、夏休みの宿題に取り組みました。

はじめに2日間で取り組みたい宿題の内容を発表してから、それぞれ宿題に取り組みました。



残りの宿題に取り組む子ども達



繁田さんとのサッカー楽しかった！

で行いました。午前中は机に座ってばかりだったこともあり、子ども達は楽しく、のびのびと運動をすることができました。

2日目のお楽しみメニューは、弥富郵便局の白神局長さんによる工作教室でした。ダンボールを用いてのピンボールマシンを局長さんにご指導いただきながら、作成しました。子どもたちは、個性のある仕掛けを考えながらの楽しい工作教室となりました。

少しでも、子ども達の夏休みの一助となればと考えての企画でありましたが、いかがだったでしょうか？
ご指導いただきました弥富駐在所長、弥富郵便局長、そして、子ども達に差し入れしていただいた地域の皆様、誠にありがとうございました。
さあ、2学期も頑張ろう！



ピンボールマシンに絵を描いていました

公民館学級

地震に備えよう！



須佐あおば勉強室

8月20日（火）、日本赤十字社山口県支部の職員さんにお越しいただき、「防災講座」について話をいただきました。

はじめに、熱中症対策について話をお聞きしました。

熱中症が起こりやすい環境は、「高温・多湿・風が弱い」ことで起こりやすくなります。

また、一番危険になると「意識障害」や「けいれん」「高体温（冷やしても体温がなかなか下がらない）」という症状となり、救急車を呼び、高度な治療ができる病院へ搬送するようになります。

熱中症の予防

- 屋外では日陰へ、室内ではエアコンなどの効いている部屋へ
- こまめに水分補給をする（時間を決めて水分を飲む）
- 日頃から運動で汗を書く習慣を身につけ、暑さに備えた体づくりをする
- 集団活動の場では、お互いの声掛けをする

次に、

「地震」が起こる際の防災対策について話を聞きました。

今回は、在宅避難の備えについて考えてみました。まず参加者に自宅の一室に何がどのように置いてあるか平面図に書き出してみました。

その中で、ここは危ないという場所を示していただくと、「倒れてきて危険」「物が落ちてきて危険」「割れて危険」などたくさん危険箇所があることに気付きました。

地震の備えとしては、次のことに気をつけましょう。

- 備蓄品の準備や見直し
- 落下するもの、割れるもの、倒れてくる物の事前処置
- 避難経路の確保

その他、ライフラインの確認や情報収集の仕方、また、そういった備えも後からではなく、『命のために、今動きましょう』。



地震発生時の危険箇所について話し合う参加者

特集

対談

地域課題もつ後がない(後編)

一人一人が地域の魅力を発信することがヒント

前半に引き続き対談の後半を続けて行きたいと思います。前半では、それぞれ地域の魅力を語ってもらいました。後半部分では、本当に田舎は不便なのか、ものによっては、便利な事もあるのでは、そこら辺を検証してみたいと思います。

便利さと孤独感の戦い

(野村)

最近、通学の列車の便がどんどん減らされていることで不便さを感じています。



活発な意見が飛び交う対談の様子

(藤山)

同じく通学の列車が少なくなっており、帰ってくると地元のスーパーが閉まっています。買物ができず困っています。

(林)

学生時代都会に住んでいました。都会といっても、元々田舎の人間なので学校に行って友だちと会話し帰ってくる生活を繰り返していました。



都会は買物に行く選択肢は多いけれど、結局駅まで自転車です。今は、車で30分の範囲で買物ができるので、全く不便は感じていませんね。

都会は買物に行く選択肢は多いけれど、結局駅まで自転車です。今は、車で30分の範囲で買物ができるので、全く不便は感じていませんね。

電車に揺られ出かけた記憶があります。今は、車で30分の範囲で買物ができるので、全く不便は感じていませんね。

(司会)

皆さんは、田舎での生活で不便さを感じておられないことは分かりました。私は、その昔大阪にいて感じたことは、郊外の本屋に電車で出かけ、帰った時に明かりがないことがとても寂しさを感じた記憶があり、4年間は便利さと孤独との闘いだった気がします。

(斎藤)

去年お産のお手伝いで神奈川へ行きました。田舎に居るとすぐそこまで車で出かけられますが、都会とはにかく電車の数は多いし、便利さはありますが、とにかく歩くことばかり、とにかく歩きました。

今は運転できるから便利、でも運転ができなくなったらどうしようかという将来の不安があります。



須佐で暮らすためには・・・

(司会)

須佐地域の良さを知らない親(大人)が多い、だから子ども達に伝わらない。逆に今の子ども達の方が須佐の良さ(魅力)を良く知っている。

そのギャップが、人口減少につながっている原因かもしれません。そして、いくら須佐が好きと言っても住むところがないのも事実です。そんな問題はどのようなのでしょうか。

(山本)

僕は、周南にいた時から日本海側に住みたいと思っていました。地域おこし協力隊としてではなく、萩市の空家バンクの物件を探してみ



たが、その時はあまり物件がなかった時期で、それに比べて長門市は割と多くの物件がありました。担当職員の力の入れ方が違うのか、協力したい人が多いのか充実していました。須佐に住めないという実態はもったいないと思います。住むところがないと、いくら須佐に住んで下さいと言っても、選択肢に乘れないと思います。

(石田)

空家バンクの須佐地区の担当として、今はかなり空家の登録が出ています。心配はないと思います。賃貸・売買とも売り手があつて、

買手があるといった状態の中、貸したいが諸事情があつて貸せないこともよくあります。

単に住みたいのか、生活してみたいか、駄目なケースもよくあり、その辺は地域内での人と人とのケアも必要だと思っています。

(山本)

石田さんが移住してきた人へのケアが大切だと言われましたが、僕は定住するか否かは、隣の人次第だと思っています。結局、移住された人と関わるのは、職場の人とか近所の人だと思っています。その限られた人がどうであるかが大きな影響力を持つこととなると考えています。幸い私の住んでいる近所の方は、大変良い人ばかりで定住に向けた方向性ができるのではないかと思います。

(司会)

本当に移住・定住って難しい問題だと思っています。今年公民館だよりの新コーナーで「移住万歳コーナー」を新設する予定でしたが、近年移住された方々を対象に須佐地域を外から見た魅力(素晴らしさ)を伝えてもらおうと企画したのですが、結局それぞれの諸事情があり未だに開設できていません。それだけ移住・定住という問題は簡単なものでないこと



を痛感したところです。

(斎藤)

空き家バンク登録に登録するには、水回りとかトイレとか整備しないと登録できないのですか。

(石田)

具体的にはリフォームをする必要ありません。入居が決まってから修繕すれば、萩市から補助金も出ますので、それを利用して良いと思います。また家財の撤去も補助金が出るので相談をしてほしいです。

(司会)

結局魅力ある地域を創らないと、魅力のない地域に人は住まない気がします。それが、地域の自然や文化、人々の営みなのかは、個々人の感じ方は違うと思います。そのためには、どんな魅力を発信して行ったら良いと思いますか。

(野村)

僕は長磯海岸の水が綺麗で、そこで泳ぐ魚を見るのができるし、海水浴もできます。高校生の友達と長磯まで行くと片道歩いて30分かかります。



きれいな長磯海水浴場

長磯まで行ける交通手段があったらいいなと思っています。そうすれば萩からも高校の友達も呼ぶことができるのだが・・・？

(山本)

駅前のいかマルシェには、レンタサイクルもあるしそれを利用する方法もありますよ。



(野村)

レンタサイクルがあることは知りませんでした。勉強不足でした。情報有難うございました。

(司会)

レンタサイクルもあるけど、「みこと号」などもあるので割勘で利用すれば格安で利用できますよ。

高校生だってそんな便利な仕組みを知らないもので、一般の方が知らないことも多いと思いますよ。まずは出掛けて須佐地域の魅力を探してみても如何ですか。

(藤山)

須佐だけのお祭り、特に須佐が盛り上がる花火大会のようなものがあったら良いと思います。

そうすると須佐の人じゃない方も来るかと思っています。花火大会は、須佐の名物でもあるのでなくしたくないですね。

花火大会が

須佐の魅力の一番・・・



(石田)

須佐の花火大会は、最近の物価高騰等でかなりお金がかかるようになりました。

去年打ち上げた花火が、前年度より1.7倍に、今年はまだ上がり2倍になります。萩市からの補助金もありますが、今までの残り予算(寄付を次の年にまわす)を組んでいる状態です、繰り越しがなくなると、最終的には花火はできなくなります。



音響効果抜群の須佐湾花火大会

今まで2000発以上上げたものが、500発では意味がなくなるのではないかと思います。

去年は、もしかしたら最後になるかもしれないということで2000発上げましたが、お金が尽きた時点で終えざるを得ないこととなります。

花火は、映像や思い出くらいで何に残りません。最後のフィナーレを打ち上げたとき、花火大会は最高潮となります。その時「やって良かった」と思うことで寄付が集まれば次の年にもつながります。

今年は、漁師の高齢化も進み、花火の準備から後片づけも、みんな実行委員会やらねばなりません。従って、今年は、更に大変な花火大会となりそうです。

でも、須佐の花火は須佐の象徴でもあり、夏の風物詩として残して行きたいものです。

(伊藤)

須佐の花火大会は綺麗だと思っていましたが、結構お金がかかるんだなと思ったし、準備から片付けまで大変なんだなと裏方の話を聞いて知ることができました。

僕もいざれでできることがあれば手伝いたいと思います。

(司会)

綺麗だなと思う華やかな世界には必ず裏方さんの手伝いがあります。

それを支える人達により、華やかな世界がより綺麗に成り立っていることを忘れてはいけません。

私は常々、表に立つ人よりも、それを支える裏方の人達を、表に出ない表がないから、



これが本当の「おもてなし」と呼んでいます。この花火大会にも、花火資金を集める人や当日の準備、片付けと裏方さんのおもてなしの力で支えられていることを忘れてはいけません。

(石橋)

だんだん須佐地域は高齢化になって、花火の後片付けも大変なことを私たちは知らないし、それを支える方々の大変さが分かりました。一つの行事をすることに対して時間が結構かかるのだなと思いました。

(中原)



花火は、今まで

自分は見ただけだったので、誰かが皆さんに来てもらうためには、このように裏方で頑張っておられる方がおられることをよく知ってもらえば、花火の見方も変わっていくのではないのでしょうか。そういう工夫も今後必要ではないかと思っています。

(司会)

裏方の方の支えがあることを伝えて行くことも必要かなと思います。そうゆうことを伝えるのも須佐の魅力の一つかなと思います。

(中山)

主人が、子どもの頃から神楽をしています。

子どももまだ興味は薄いけど、頑張っ



熱演の長州神楽舞

を広く伝えていきたいと思っています。この神楽も長年鈴野川地区に伝わる芸能文化として今日に至っているもので、今後も大切に伝承していきたいと思っています。

人口減少の中、担い手も少なく私もその一員として頑張っています。長州神楽を今後もPRをしたいと思っています。

(司会)

田舎には田舎の良さが、都会にはない素晴らしさがあり、それをここで暮らす私たちが認識することが一番大切だと思います。それが地域の魅力だと考えています。

須佐の良さはいっぱいあると思いますが、最後に地域の良さを活かして、今自分に出来ることは何かをお聞きしたいと思っています。

(伊藤)

僕は、SNSだったりYouTubeとかで須佐地域の良さを広く情報発信して行きたいと思っています。

そして、伝統の須佐焼は今作る予定はありませんが、その良さを伝えて行きたいと思っています。

(石橋)

自分達が、これからもつとつと須佐の事を知りたいと思っています。私は、高校になったら益田の方に進学したいと思っています。益田の高校生は、田万川までは知っているが、須佐のことを知らないことが不思議

です。須佐には美味しいイカとかホルンフェルスなどきれいな自然がいっぱいあることをPRしてきたいと思っています。

(藤山)



益田の高校生は、田万川というところと温泉があるところと反応しますが、須佐のホルンフェルスと言ったら、それは何？と須佐が知られていないことが不思議です。これからは、須佐の事をもっと知ってもらいたいと思っています。もっと広く須佐を知ってもらうために、今度自分たち高校生が主催する祭りを8月15日に開催する予定です。参加をお願いし、そして後輩に受け継いでもらうことが私のできることかなと思います。

(野村)



8月15日のお盆に高校生が考えた須佐を元気にするお祭りを高校生が主体となったイベントを主催したいと思っています。この祭りを開催することで、須佐地域全体が元気になれば良いなと考えています。

石田さんが話された、花火大会の片づけなども、今年は受験生で出来ませんが、来年以降手伝いが出来たらやりたいので、是非声をかけてほしいと思っています。

(山本)

私個人としては、まず定住することと力を入れていきたいと思っています。今は子どもが生まれたばかりなので手一杯ですが、何事もボチボチやって行けたら良いと思っています。住み続けられればそれから、色々出来ると思うので・・・。

(林)

私が夢見てることは自分たちの祭りを受け継いでほしいと思っています。続けるってことは、すごく大事なことからことです。

最近の中学生はお利口なところがあり、保護者から、「あなたはこうあるべき」とらわれ過ぎていないか」との声を聞きます。

例えば、料理をすればイカを使わないといけない、ボランティアだと掃除をしなければとか、それはそれでとても素敵なことですが、もう少し肩の力を抜いて、自分達が心から楽しい発想が出来るものではないかと思



中学生による畳ヶ淵清掃活動

ろうかと思えます。その楽しさを活かせば大人が声を掛けてくれる。みんなが頼ってくれることで、地域が元気になるのではないかと思います。

す。子ども達にとつて有意義な時間が地域の魅力につながるのではないのでしょうか。

中学生の時、地域学習(ボランティア含む)活動をした懐かしみがいずれ子ども達にも帰り、強い地域との結びつきが出来るのではないかと思います。だから今子ども達にとつては、地域を学ぶことが一番必要なのではないかと思っています。

(中山)



弥富地区は小学校が休校となり寂しい思いをしています。

でも放課後子ども教室を開催し、地域の方々と触れ合う機会を設けています。たとえば、グランウインドゴルフに子ども達が参加することで、地域の高齢者の気持ちも和ませてくれています。

子ども達の力で須佐地域に元気を届けています。

(中原)

普段郵便局で働いているので須佐の方や遠方から来られるお客さんや業者の方も結構多いので、今の時期花火大会のポスターもATMのところに貼らせてもらっています。

ちょっとした須佐地域のイベントを知るきっかけにもなり、お客さんと話す機会にもつながり引き続きその積み重ねを頑張つて行こうかなと思っています。

(石田)

何年か前から須佐が好き、須佐ラブで来ています。

なんでそうなったのか考えてみると、もともと家には父親の軽トラが1台しかありませんでした。だから兄弟家族で出掛けることはできませんでした。

そのため季節季節で、遊ぶ場所は近くの須佐しかなかったことです。

海に行ったり、川に行ったり、小さい時からの経験体験をしたことが、須佐への思いにつながつていったのではないかと思います。

自分子ども達にも、外で遊ばせました。多分子ども達もその時の体験や経験が生きてくると思います。

今は室内で遊ばせ、外遊びはさせないといった家庭が増えている中、それが今後子ども達にどう影響するのか、私は地域の子どもの達には、色々な経験をさせてやりたいと思いますし、そこに一番力を注ぎたいと思います。



(司会)

余談ですが皆さんは子どもの頃どんな遊びをしていましたか。

(中原)

私は、体を動かすことが好きだったので、バレーボールでよく外で遊

んでいました。

(野村)

小学校の頃は、小学校のグラウンドでサッカーボールを蹴つて遊んでいました。雨の日は、家の中でファミコンゲームに夢中になったこともありました。

(斎藤)

主人は無農薬の野菜を作り、都会の子ども達に送り続けています。主人にとつてはそれが一番の楽しみになっています。

須佐は割と知られていても、弥富はほとんど知られていません。しかし、最近ある雑誌で弥富そばが紹介されたことで、徳山や山口の方からそばを食べにくる人が多くなりました。PRつて本当に大切だなと思っています。今後も美味しいそばを提供出来るように努力したいと思っています。

(司会)

みなさん色々なご意見本当にありがとうございます。最後に、今回の対談をどのようにまとめようかと少し悩んでいます。

須佐地域の魅力は、本当に沢山あると思いますし、その活用方法が新たな地域の元気につながるものと確信したところです。

失敗は、中高校生の特権です

高校生は、やはり須佐地域が好きなんだと感じることができました。だから自分達の力で何かやってみた

いという機運に掻き立てられたのではないのでしょうか。

高校生には、「頑張れ」とエールを送りたいところですが、あえて「失敗は自分達の良い経験になる」ことを伝えたいと思います。

林さんが言われるように、今の子ども達は御利口さんに育っていると云われ、学校でも家庭でも失敗はありません。だからあえて失敗は恐れないでほしいと思います。

私的には、失敗は中学生・高校生の特権だと思います。大人になって失敗するより、今の時期の失敗は必ず、将来の自分を作ってくれるものと信じています。

そんな子ども達の挑戦に対して、大人の私たちが、しっかり受け止めてあげようではありませんか。

こんな子ども達が、きつと私たちの将来を何等かの形で支えてくれるものと信じてやみません。

地域の魅力は、須佐地域が創り上げた子ども達かも知れません。それは、家庭や学校・地域が一体となった時、この魅力は生きていくのだと思います。大自然があり、子ども達を支える大人がいるこの素晴らしい地域は、どこにもないと思います。

最後に皆様方のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございます。

須佐公民館/吉田



須佐ホルンフェルス

子育ては親育て

山根丁東 中原愉季子



2人の娘の子育てが始まり20数年。長女は社会人5年目、次女は専門学生となりました。小さい頃の2人は対象的で、長女は家ではおてんばそのもの。外に出ると親のそばから離れず大人しい一方、次女は家では一人遊びが得意。外ではすぐに走ってどこかへ行ってしまうので見つけるのに苦労したものです。そんな2人が生まれて今に至るまで、全く変わらないのが姉妹の仲の良さです。

当時の私は、育児休業をほとんど取得せず仕事に復帰したものの、病院での勤務なので仕事に行けば定時に帰れることは少なく、何時に帰れるか全くあてにならないため、寝顔だけを見る事も多く、子育てはもっぱら夫と同居の両親に頼る毎日で、その全てをこなしてくれた夫と両親の支えで、仕事と子育ての両立ができていたことを今でも有難く思っています。

その頃から、子ども達とのスキンシップを大切に、一日一回は必ずハグをするよう心掛けました。時

には子ども達から繰り返しハグをしてくると「あれ、何かあったかな？」と気付ける事もあり、かなり大きくなるまで習慣づいていったように思います。

子どもが小学生になってからは、可能な限り学校や地域の行事・活動に参加しました。私がつい子ども以上に楽しんでしまい「お母さん、恥ずかしいからやめて」なんて、よく言われたのを思い出します。

また、運動好きで引込み思案だった長女に人前に出る度胸がつけられるのでは？と思う

親。そして何より長女が「自分でやる！」と決めて始めたバレーボールに次女も続き、以後13年の長い年月、バレーボールを通じ一緒に過ごす時間も多かったため、バレーボールが親子共通の話題で、自然と会話することも増えた気がします。そして娘



たちは、今もってそれぞれでバレーボールを続けています。

以前、長女が「私はバレーをして良かった。バレーを通じて社交的になれた」という言葉を聞いた時、選択は間違ってたなかったと嬉しくて心の中ではガッツポーズ!!

子ども達が成長し思春期を迎える頃、一緒に2つのルールを決めました。1つ目が携帯電話は高校に入學するまで持たせない。しかし今は、小・中・高校でICTを活用した授業があるので今だったら携帯電話は持たせていたかもしれない

2つ目は高校を卒業するまで友達宅への外泊はダメ!!これは、私たち夫婦とも、互いの両親から言って聞かされた育ったため、自分たちの子育てにも取り入れましたが、気持ちの中には今の時代にそぐわないという思いもあったけど譲れませんでした

した。ただ、私たちが意固地になり周りの人に気を使ってもらう事もあり申し訳ない気持ちにもなりました。思春期になると、時には口答えすることもあり、互いに腹を立てる反面、私の心情として、私たち親は怖いだけの存在ではなく、子どもがちゃ

んと自分の意見(文句)が言い返せることに嬉しさもありました。

そして、子どもが成長するにつれ、自分の人生の中で子どもに思う存分、手をかけられるのは多くの場合、たった18年しかないと思うようになり、幼少期に思うように手をかけられなかった分、娘たちが高校生になる頃には、ちよつとした事でもあえて手をかけ過保護に接したものです。

自分の子育てを振り返り感じたのは、子育て＝親育てなんだなという事です。子育てをさせてもらえたからこそ、私自身も苦手な事から顔を背けず、色々な事に取り組めたのではないかと。そして大切なのは、子ども達だけに頑張らせるのではなく、親である自分が新しい事にチャレンジする姿勢や失敗する姿も行動で示すことが、子どもの積極性やチャレンジする力に繋がっている事に気付かせてくれた子ども達には感謝しています。

最近口喧嘩をすることもありますが、いざとなると私たちを助けてくれる頼もしい存在です。これからも親として、新しい経験が続くことを楽しみながら過ごしていきたいです。



地域の原動力

公民館

倉庫記

39



旧須佐町中央公民館

少し公民館を離れることに

昭和59年4月から弥富公民館で6

年間、そして須佐中央公民館で平成10年まで10年間、長い長い公民館生活を送り、町長から「ちよっと他部署の空気も吸って来い」と須佐町役場企画課に異動することになりました。

企画課と言っても、私としては「公民館だより」が「広報すさ」に変わり、

日々のイベントが、少し大きくなってきたらの変化しか感じられませんでした。なかでも一番感じられたのは、公民館に比べ予算が多いことでした。ということから、2〜3回は公民館を離れた姿を報告します。

山口きらら博「市町村の日」

この時丁度私に与えられた任務は、2001年20世紀初めての「山口きらら博」の準備と実践。特に山口きらら博のメイン会場でもある市町村館の企

画運営でした。各市町村がこの博覧会を活用し、いかに地域をアピールできるかを競うものでした。

私が一番最初に考えたのは、この博覧会を通して、須佐町の良さを次世代にどうにかして伝えることが出来ないか、それはいずれ来るだろう少子・高齢化の社会の中で須佐地域はどう生きるかという問題提起でもありました。

その一つには、将来須佐地域を背



きらら博の舞台上で元気に踊る子ども達

う、保育園児や小学校児童、中学生徒たちに、この「山口きらら博」という大イベントをしつかり感じてほしいとの思いがありました。



郷土芸能「上三原の田植えばやし」の披露もありました

園児たちには、地域の伝承「須佐之男命」伝説を活かした「ちびっこ太鼓」を、小学生児童には、地元につながる「田植えばやし」を子どもにアレンジ、中学生には、弥富中学校の神楽舞などをしつかり演じました。

舞台衣装や小物類を整備し、相当な予算が費やされましたが、大半は県からの助成が後押しとなりました。こうした、須佐町の企画提案は、県職員にも評価され、通常市町村のPR日は、土日以外の日に振り分けら

れていたのですが須佐町の日、土曜日に設定してくれました。また、博覧会のメイン会場のラグーンゾーン（海を引き込んだ会場）の使用をも認めてくれるなど、他の市町村に申し訳ない気もしました。

こんなに優遇された、「須佐町の日」では、子ども達の元気な舞台や須佐の名産のイカのつかみ取りや段ボールを利用したカヤックレースなどが行われ、この日だけは、須佐町が空になるだけの大型バス10数台が運行し、今でも当時の思い出が語り合われる場面もあり、須佐町をPRする絶好の機会であったと思っています。

山口きらら博開催に当たり、準備段階から、県職員との接触も多く、手塚猛昌の情報もこの時聞いたことが元となり、須佐駅前には顕彰碑建立につながりました。

また、図書館オープンした後、高知県に事例発表に行った時に出会った、スガダンススタジオの代表者とは、きらら博関連のテレビ放送局スタッフや商工会議所関係の方を通じて、親しくなり、この後「よさこい踊り」は、山口県を中心に大ブームになりました。これは、山口きらら博という博覧会がもたらした元気の副産物のような気がしました。

ぶらぶらタモリ

まちあるき



タモリに負けずわが町を紹介

「ブラタモリ」ならぬ『ぶらぶらタモリ』が、わが町を紹介します。
今回も前回に引き続き「焼物の里」唐津集落をについて紹介します。

萩市と会津市と須佐唐津は縁にあらず

あと先きになりましたが、幕末藩政時代にあったとする喜ばしいお話を聞くことが出来ました。それは、伊藤家に伝わる古文書の中に、次のような事実が解読発見されました。

「明和3年（1763年）毛利家23代の藩主毛利宗廣の二女誠姫（のぶひめ）は、同年9月21日毛利24代藩主重就の養女として、会津28万石藩主松平肥後守容綏へ嫁がれた。
この時重就は、嫁入の御成物として、陶器と御用細工士の坂家に仰せ付けられたが、坂家の陶工幼少のため、時の須佐領主益田氏29代益田就祥へ仰せ付けられ、すぐさま、須

佐唐津の御用細工士伊藤甚左衛門へ仰せ付けられ、直ちに、須佐唐津窯において調整し萩本藩へ送ったところ、藩主重就は、至極御気に叶われ、長技工たるをもつて、本藩の御用陶工士となし与える。の言葉ありしが、就祥より其のことは是非断り、御用の時は、何時共制作致すとのことで固辞した。製品は、風流な置物、雑用、俗用なるもの、又は大なる徳利、1斗余り入る壺等であった。後に、この品は、会津においても至極賞美された、と聞く。これは伊藤家にとって、名譽ある歴史の逸品を飾る一コマである。」

このような話を伺いました。このことなどからも、須佐窯は、領主益田家の御用窯であったことが伺えます。

銘水「唐津の滝」

次に銘水唐津の滝です。専門学者の説では「滝」は急な斜面を激しい勢いで下っている水の流れ、急流。あるいは懸崖から激しく流れ落ちている水、を滝と言う。と説いてあります。

そこで、この唐津の滝は、この学説に言われる大々的な規模ではなく、小規模ではありますが、清水の

流れる景勝の地であつて、その昔から地域の人達になじまれている所です。



「唐津の滝」は景勝地

この唐津の滝は、唐津集落の中心を流れる唐津川に沿って、奥地に約200mくらい進むと、山谷集落に通ずる道と、小川平山集落に通ずる古道とがあります。

ここで、唐津にお住いのIさんにガイドを頂いて廃道化した平山集落方面の山道の傾斜地を登ると、人道として通りやすい人工的に造られた階段式の道が設置されています。その階段を登ると、途中左手に地域で信仰されている「斎の神様」と称される石像が鎮座されているので拝礼の後は更に登り進むと、左手に「滝の観音像」が安置されています。合掌来拝を終えて、前進すると、ザーザーと涼しげな水の流れる音が聞こえてきます。

そこを更に前進すると、少し台状になった岩の上に到着します。その上に立って前方を見ると黒色の絶壁が見えて参ります。

壁の高さは、大凡30m位が2段になり、その上を大量の水が流れ、滝壺に落ちていきます。つまり、これがこの地域で言われる「銘水唐津の滝」なのです。

滝の周辺は、雑木に覆われ、飛沫と共に、冷気が漂い暑さを凌ぐ丘陵の所となっています。

冷気の舞い込みは、ひんやりとして、涼しさを感じることが出来ました。お話を伺いますと、かつて、その昔は、この滝を目指して小学生が遠足のコースにしていました。

また、この地は夏の涼しさ、秋は紅葉が映え素晴らしい優雅な景色を楽しむことが出来るとして、たくさんの方が訪れていた。とのことでした。

また、この滝壺の側を登るとやや平坦な地があつて、その昔は、その地で米作りがなされていた、とも伺いました。

冷気を浴びながら、しばし身を休めて再びあの険しい山道を安全第一に下山をはじめ約20分位で唐津川本流に辿り着きました。 つづく



まちの駐在さん

Q: 「サンダルが気持ちいい」と言って、サンダルで車を運転する人を見ることがありますが、これはいいのですか？それとも危険なことですか？もし危険なのであれば、どんな時に危険なのでしょう？教えてください。

「お答えします」

須佐駐在所：衛藤豊文

まだまだ暑い日が続いており、素足にサンダルで過ごすことが多くあります。

また、車を運転するとき、外から足元が見えないし、足元は熱がこもりやすいので、快適に運転するにはサンダルが一番。更には、いちいち靴に履き替えるのも面倒だと感じて、そのままサンダルで運転しがちです。

しかし、サンダル履き運転は、交通違反に該当することがあります。山口県道路交通規則では、「げた、木製サンダル、その他の運転操作に支障を及ぼす恐れのある履物を履いて運転しないこと（一部省略）」と定められています。

近年、高齢者ドライバー等のブレーキとアクセルの「踏み間違い」による不幸な交通事故が、ニュースでクローズアップされています。その多くは、

高齢化社会の問題点としてとらえ、高齢者の認知・運動機能低下による「踏み間違い」ではなく、「踏み損ない」です。運転中に危険を感じて、急いでブレーキを踏んで止まらなければならないことがあります。この時、脱げやすい、また、底が滑りやすいサンダルを履いていた場合、ブレーキペダルを踏み損ない、危険を回避することができず、結果的に「踏み間違い」事故と同じ結果を招いてしまいかねません。



高齢者ドライバーによる踏み間違い事故を、他山の石とはせず、ドライバーの皆さんには、運転操作がしやすい運動靴などを履いて運転することをお勧めします。



土砂崩れによる民家、必死の救出作業をする県警機動隊、消防団員

この災害で、住宅の全壊12棟、半壊4棟、一部破損9棟、床上・床下浸水650棟、田畑の流出・埋没23ヘクタール、水路115箇所、河川178箇所、町道99箇所等が発生した。養殖魚にも甚大な被害をもたらした。沖浦・まてかた・金井部落が孤立となった。また、まてかた地区など38戸が断水、停電は1,576戸にも及んだ。

あの頃の須佐は 40年前の須佐を 振り返る…「広報すさ」

須佐町を集中豪雨が襲う！

このコーナーは、元気だった頃の須佐町を「広報すさ」から引用し、住民の皆さんに当時の元気な姿を届けたいと思いますが、悲惨なこともありました…。

昭和58年7月23日未明、須佐町を襲った集中豪雨は、4人の尊い生命を奪い、しかも、有史以来の山地、急傾斜地の崩壊、河川の破損壊、更に農林漁業、商工など基幹産業に甚大な被害をもたらしました。梅雨前線の活動が7月22日の夜半から活発となり（20日～22日までもに先行降雨が相当あった）、23日8時ごろまでに県北部地方に強い雨を降らせた。

記事は、昭和58年9月15日発行の「広報すさ」から

地域トピックス

おかほ

陸稲栽培日記④



先月号からひと月経った陸稲（おかほ）は、どうなっているでしょうか。8月22日（木）に元氣農園へ様子をに行ってみました。

すると、穂が出ていて、よく見ると花がついていました。良い穂は緑色なのですが、白っぽくなっているのは病気がらしいです。

一度、草とりもしましたが、結構大変でした。後、2ヶ月くらいで刈り取りとなるのかな？楽しみです。

パパイヤ栽培



元氣農園ハウスのパパイヤの実がたくさん！



パパイヤは、世界で人気のトロピカルフルーツですが、ここでは、青パパイヤを栽培しています。

生育がとても速く、実生から3年〜5年で高さが7メートル以上生育するそうです。

青いパパイヤは、サラダや炒め物で食べることができます。

家庭菜園で栽培することもできますので、是非一度、チャレンジしてみたいかがでしょうか。

収穫時期は、11月ごろとなります。皆さんの家で家庭栽培する際、収穫時期には是非、公民館へ声をかけて下さい。写真を撮りに行きますよ。



右の陸稲の拡大写真のとげのようなのが花です

我が家のアイドル

毎日たくさんの笑顔を見せてくれる有希くん。有希の笑顔でいつもいやされてるよ♡お姉ちゃん大好き、食べるの大好き、たくさんの大好きが増えていくね。いろいろなものに興味をもって、これからもたくさんの大好きみつけていこうね。

いっぱい食べて、いっぱい寝て
いっぱい遊んで、どんどん大きくなあれ～！

～パパ有孝・ママ佳恵より～
(中畑：中村さん)



有希（あき）くん：0才
令和5年10月25日生

～お知らせ～

「我が家のアイドルコーナー」では、子どもさん（5才まで）の写真と、お父さん、お母さん（おじいちゃん、おばあちゃんでも）のコメントを募集しています。

須佐公民館まで是非、お寄せください！

生涯学習作品コーナー

【令和6年度「生涯学習発表会」作品展から】
～エコクラフトクラブの作品紹介～



かぶと



皿



バッグ



帽子

【俳句】

朱夏の日にオリンピックに期待こめ

(山根丁東) ゆめはるか

【短歌】

皿並べ料理盛り付けばかりで

男寡夫の今日もこれかよ

(青葉台) 田村雅利

列島の各地の災害見聞きして

過去の災害忘れずと！

(山根丁東) ゆめはるか



須佐の偉人伝 大塚均

90



大塚 均 (1911－1998)

東大寺広目天像切手

東大寺戒壇院の四天王像では、
広目天は目を細め、厳しく眉根を
寄せ、遙かなる草原の彼方の遠方
を窺うかのように凝視している。

広目天は梵語では「ビルバクシ
ヤ」。直訳すると「通常ならざる
目を持つ者」となるそうだが、そ
の意味は千里の遠くをも見通す
者と云うことだろう。

昭和56年3月16日310円切手
が発行された。大塚均70歳時の作
品です。



このコーナーでは、切手デザインの大家である大塚均(山根丁東出身)さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介しています。

切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。

2024		9月 地域カレンダー				
		須=須佐公民館 弥=弥富公民館 ☺=生き生き教室 学=学校・保育園行事 ㊦=スポーツ関係 保セ=保健センター 子=子ども対象行事 弥G=弥富グラウンド				
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 防災の日	2 ☺麻雀クラブ 13:00 ☺ピンポン 13:30 学小・中学校始業式	3	4 ☺つどい会 10:00	5 	6 ☺手芸クラブ 9:30 ☺囲碁・将棋 13:30	7 学須佐中親子作業
8	9 弥さつき学級 10:00 ☺エコクラブ 9:30 ☺麻雀クラブ 13:00 ☺ピンポンクラブ 13:30	10 須あおば勉強室 9:00	11 ☺歩こう会 8:45 須色えんぴつ画 13:30	12	13 	14
15 家庭の日	16 ■須佐地域敬老会 10:00 (文セ) 	17 須パッチサークル 9:30	18	19 ☺生き生き体操 8:45 須さつき学級 13:30	20	21 学小・中合同運動会 (育英小グラウンド)
22 秋分の日	23 振替休日	24 ☺エコクラブ 9:30 須パッチサークル 9:30	25 須色えんぴつ画9:30 弥グラウンドゴルフを 楽しむ会 9:30 ☺音楽療法 13:30	26 	27 ☺手芸クラブ 9:30 ☺囲碁・将棋 13:30	28 学須佐保運動会
29	30 ☺ピンポン 13:30 ☺麻雀クラブ 13:00	《スマホなんでも相談所》 9月9日、24日の月曜日 須佐公民館 時間：9時～17時			秋の全国交通安全運動 期間=9/21～30	

須佐地区体育大会 予告

○日時 10月20日(日)
※午前9時開会

○場所 育英小学校
グラウンド

奮って参加してください

第40回須佐美術展作品募集!

- 開催期間 11/1(金)～5(火)
○作品搬入 10/21(月)～25(金)

※あなたの作品を出品してみませんか?ジャンルは、絵画・写真・書・工芸・陶芸等何でも構いません。作品には、所定の出品票を付けて出品して下さい。(出品票は須佐公民館窓口にあります。)

★お問合せ：須佐公民館 ☎6—2310

伝言板



毎月第3日曜日は「家庭の日」
今月は「15日」です
 ★家族みんなで過ごしましょう!

須佐地域の人口 (R6.7月末現在)

	世帯数	人口	前月比
須佐	939戸	1,678人	
弥富	217戸	396人	(△1人)
合計	1,156戸	2,074人	(△1人)

昨年比 世帯数△22人 人数△60人

編集後記

もう9月、暦では「秋」ですが、この猛暑は、まだまだ続きそうです。皆さん体調に変わりはありませんか?

今年の夏は、「手足口病」や「熱中症」「コロナ」といろんな病気が重なり、感染に気をつけていたことと思いますが、この暑さで体調のバランスもくずれ、感染予防もなかなか大変だったのではないのでしょうか。

今後、手洗いやうがい、水分補給、また換気などもしながら、もう少し気をつけていきましょう。

E・O

